

かちかち山を基にした話

ウサギ

タヌキ 1

タヌキ 2

お爺さん

客入れ

暗転

音楽

照明、うつすらと (青)

舞台上、中央に椅子が置いてある

爺、顔に布を被せられ、後ろ手に縛られている

タヌキ 1 (以下弟) に誘導され、共に入場

以下、入場中の台詞。ニュアンス的に捉えてください。

爺 やめてくれ。
私をどこに連れていくというんだ。
私が何をしたって言うんだ。
弟 さつさと登れ。
爺 階段か。
弟 ほら。黙って登れ。
爺 勘弁してくれ。
私を何をしたっていうんだ。
弟 次は左だ。
爺 どこなんだ、こは。
弟 ほら、歩け。
座れ。

弟、爺を椅子に座らせる

爺 何なんだ。
一体これはどういうことだ。
私がいったい何をしたっていうんだ。
弟 うるせえ。
爺、少し黙ってる。

爺 うなずく

弟、タヌキ2 (以下兄) を呼びに行く (墜下)

弟、戻ってくる。兄、入場。

爺 誰だ。

私がいったい何をしたっていうんだ。

弟 うるさいって、お前。

兄、弟に向かって頷く

弟、爺の顔に被せている布を脱がす。

爺 誰だ、お前たちは。

私をこんな所に連れてきて、一体何たっていうんだ。

誰なんだ。お前たちは。

兄 こんにちは。

そして、ようこそ。

爺 ∴

兄、爺をびんた。

兄 駄目だなあ。

挨拶したら、挨拶を返さないと。

お父さんと、お母さんに教わらなかった。

僕は教わったよ。

もう死んだけど。

∴

兄 こんにちは。

爺 へーへー、こんにちは。

兄 よくできました。

爺 き、き、君たちは一体誰なんだ。

兄、手で爺の発言を制止

兄 質問は、いない。

状況を考えよう。

お爺さん、あなたには何の権利もない。

僕たちの言うことを聞くだけ。

そう思わない。

爺 ∴

兄、弟に目配せ
弟、爺をびんた

兄 返事は。
教わらなかった。
爺 はい。
弟 元気良く。
爺 はい。
弟 もつと。
爺 はい。
兄 そう思います。
兄 良くできました。

兄 僕たちが何者なのか、気になりますか。
爺 はい。
兄 誰なんですか。
兄 馬鹿なのかな。

兄、弟に目配せ
弟、爺をびんたしようとする

爺 すみませんでした。
もう質問しません。
兄 気をつけた方が良い。
彼は右手でしかびんたしないから、君の左頬だけをびんたすることになる。
そのふくよかなほっぺが、左だけ、更にふくよかになってしまっよ。
爺 すみませんでした。
兄 僕たちが誰なのか、直に分かるから、我慢してね。
爺 ∴

兄、弟に目配せ

爺 はい。

兄、弟に目配せ
弟、パソコンをいじって、水滴の音を出す

爺 ∴

弟、爺を立たせ、スピーカーの前に、爺、苦悶の表情。

そして、その感想を適当に口走る

兄、弟に合図

弟、爺を椅子に戻す

兄 お爺さん、お爺さんは、とつても良いお爺さんらしいね。

爺 どうだろう。

兄 みんなそう言ってるよ。

爺 そうですか。

兄 今まで、悪いことつてしたことある。

爺 ∴

兄 ないよね。

良いお爺さんだから。

爺 ∴

兄 では、何故こんなことになっているのでしょうか。

爺 わかりません。

兄 その答えも、直に分かります。

もう少し待つてね。

爺 ∴

弟 返事は。

爺 はい。

兄 遅いね。

弟 見てこようか。

兄 良いよ。

ゆつくり行こう。

でも、あれだね。

こうやっているのも、退屈だね。

弟 踊らせるか。

兄 面白いかもね。

時間潰しには、最適かも。

弟、曲をかける

兄 お爺さん、この曲で踊れるかな。

弟 大丈夫。

弟、爺の後ろ手に縛った紐をほどく

爺、逃げようとする

兄、何かの凶器で止める

兄 死ぬよ。

爺、舞台中央に戻る

兄 踊って。

弟、曲のボリュームを上げる。

弟 踊れ。

爺、ダンス
程長く踊らせてから

弟 脱げ。

爺 …
弟 脱げ。

爺、兄の方を見る
兄、頷く
爺、脱いで、赤ふん二丁に

弟 踊れ

爺、再び踊る
程長く踊ってから、兄、拍手をする
弟、曲を落とし、爺を椅子に座らせて、再び後ろ手に縛る

兄 素晴らしい。
とつても良い時間でした。
ぼちぼち、キャストが揃いそうなんでね。
そこに大人しく座っててくださいね。
じやないと、殺すしかなくなっちゃうから。
爺 は、はい。

ウサギ登場

ウサギ お爺さん。

爺 ウサギさん。

弟、爺の喉元にナイフを。

ウサギ やめる。

兄 遅かったですね。
待ちましたよ。

退屈だったんで、さつきまでお爺さんにダンスを踊ってもらってたんですよ。
あなたにもお見せしたかった。

ウサギ お爺さんにダンスだと。

お爺さんの膝の状態を分かってて、お前たちは、お爺さんにダンスを踊らせたのか。

兄 膝。

ウサギ お爺さんの膝は、ガタガタなんだぞ。

そんなお爺さんにダンスなんて。

兄 そうなんですか。

それは気の毒な事をしてしまいました。
申し訳ない。

ウサギ あ。(適当な方向を指さす)

ウサギ、隙を作って、お爺さんに近づこうとする
弟、めっちゃ引つ掛かる

兄 動くな。

ウサギ :

弟 は。
畏か。
貴様。

ウサギ くぞ。

兄 あまり勝手なことは、しない方が良い。
お爺さんを殺さなければいけなくなる。
それは、僕たちも、望んでいない。
もちろんあなたも、お爺さんも。
そうでしょ。

爺 ウサギさん、助けてくれ。

弟 うるさい。

爺 ひい。

ウサギ お前たちはいったい何者だ。
何故お爺さんをとらえたんだ。

そして、それが私に分かるようにした。

兄 おや、私たちのことが分かりませんか。

ウサギ ブタとサルだろ。

弟 ウキく、何だと。

俺たちはタヌキだ。

ウサギ 今、ウキうつて。
弟 ウキく、俺たちは、タヌキだ。
ウサギ だから、今、ウキうつて。
弟 ウキく、何なんだ、このウサギ。
タヌキつて言ったら、タヌキなんだよ。
兄 落ち着け。
弟 兄貴だつて、ブタつて言われたんだぞ。
兄 俺は慣れてる。
落ち着くんだ。
弟 ∴
ウサギ もしかして。
お爺さんと私に恨みを持つ、タヌキ...。
もしかして、お前たち。
兄 ようやく理解しましたか。
そうです。
あなたに殺されたタヌキの息子です。
やれ。
ウサギ やめる。

弟、爺の乳首をつねる

爺 あゝ。
ウサギ やめる。

弟、やめる

爺 ウサギさん、助けておくれ。
弟 黙ってる。(ナイン)
爺 ひい。
ウサギ やめる。
兄 よくありませんね。
初めてお会いしたのに、命令するなんて。
ウサギ やめるんだ。
兄 やめてください。
ウサギ ∴やめてください。
兄 良くできました。
ウサギ 何だ、お前たちの目的はなんなんだ。
兄 そんなに急がなくても良いじゃないですか。
せつかくお会いすることができたんです。
ゆっくりいきましようよ。

ウサギ :

兄 少しお話をしましょう。

私たちがって、あなた達を殺したいわけじゃない。

積もり積もった、すれ違いがあります。

こういうことをしなければ、なかなか、みんなでお話しする機会もないでしょう。

ウサギ だったら、お爺さんを解放しろ。

兄 それはできません。

ウサギ 何故。

この状態で、腹を割った話など出来るわけがない。

兄 あなたが嘘つきだからですよ。

言葉巧みに、私たちの父親殺したのは誰ですか？

ウサギ それはお互い様だろ。

兄 言っただけでしょう。

積もりに積もった、すれ違いがあると。

私は、この状態が、お話しするには、ベストな状況だと思いますけどもね。

弟、爺の乳首をつねる

爺 あゝ。

ウサギ やめる。

弟、やめる

ウサギ 分かった。

話をしよう。

ただ、約束してくれ。

殺したいわけじゃないなら、話が終わったら、お爺さんを解放してくれ。

兄 もちろんです。

爺 ウサギさん。

弟 黙ってる。

爺 ひい。

ウサギ で、何を聞きたいんだ。

兄 最近は何気ですか。

ウサギ は。

兄 最近は何気を送られてるんですか。

ウサギ 何を言ってるんだ。

兄 聞きたいんですよ。

あなた達がどんな生活を送ってるのか、気になってるだけです。

ウサギ 普通だよ。

兄 普通。

ウサギ ああ。
日々穏やかな時間を過ごしてるよ。
兄 素晴らしい。
ウサギ 何が言いたいんだ。
兄 食事はきちんと摂られていますか。
ウサギ おい。

弟、爺の乳首をつねる

爺 あゝ。
ウサギ やめる。

弟、やめる

ウサギ ああ、とつてるよ。
兄 あなたは。
爺 コンビニ中心ですが、きちんと3食。
兄 おや、新しい彼女は、お爺さんに食事を作ってくれないのですか。
爺 何でそれを知ってる。
弟 聞かれたことに答える。
爺 ∴
そんなには作ってくれない。
兄 それはかわいそうですね。
ウサギ おい、何が言いたいんだ。
こんな無駄な会話をしたいわけじゃないだろ。
兄 無駄な会話ですか。
それは散々な言われようだ。
ウサギ そうだろ。
兄 それでは、私たちの話を少し。
私は言葉で、弟は身体で表現します。
ウサギ ∴
兄 むかし、むかし。
ある所にタヌキの親子が住んでいました。
タヌキは、昔から、いたずらものだと思われていました。
タヌキは、自分の子供たちに食事を与えるために、近所に住む人間の畑を荒らしたりしました。
ウサギ 事実そうだろ。
兄 人間は、たいそう怒り、タヌキを捕らえました。
ウサギ それの何が悪い。
兄 タヌキは、捕まってる間も、子どものことが心配でなりませんでした。

ウサギ 弟の方、いらないんじゃないか。

兄 タヌキは、捕まったところから何とか逃げ出すことができました。
その際、不運なことに、お婆さんを傷つけてしまったのです。

爺 不運なんかじゃない。
タヌキが意図的に。

兄 あなたはその場にいなかった。
あなたは、その現場を見ていないでしょう。
誰しも、自分に良いように、言訳をするものです。
そうして、納得していくものなんです。

ウサギ それは、お前たちもそうだろう。
自分の親が正しいことを言っているという保証がどこにある。
お前たちの親も自分に良いように言っているだけかもしれないだろ。

兄 そして、お婆さんを傷つけてしまったタヌキは、結果的に殺されてしまいました。

ウサギ …

兄 さて、ここからが本題です。

ウサギ …

兄 残された子どもたちは一体どうなったでしょう。

ウサギ …

兄 どうなったでしょう？
答えろ。(弟、マイクを向けるパントマイム)

ウサギ …

兄 答えろ。(弟、マイクを向けるパントマイム)

爺 …

兄 まだ小さかった子どもたちは、餌すら満足取ることができず、悲惨な生活を送りました。

ウサギ しょうがなかったんだ。

兄 しょうがなかった。

ウサギ タヌキは悪さをしたんだ。
しかるべき、罰があつたとしてもしょうがないだろ。

兄 見てみる、弟を。
ガリガリだよ。
日々穏やかな生活を送り、しっかりと食事も摂れている。
それはそらだ。草を食ってれば、お前は良いんだから。
コンビニ中心に、きちんと3食。
だったら、畑がどうなろうとどうでも良いことだろ。
見てみる弟を。
ガリガリだよ。
当たり前だ。満足に食えなかったんだからな。

ウサギ その割、お前は、結構な身体してるけどな。

兄 そういう体質なんだ。
プラス、私の場合、これは酒だ。

ウサギ どっちにしるお前は、そこそこ食って、飲んでるってことだろ。

弟 急に親を失った俺たちの気持ち、お前たちに分かるか。
飯も満足に食えない。
欲しい物も手に入れることができない。
俺はな、俺はな、プレステ3が欲しいんだよ。
周りの奴が、プレステ4を持つてる今ですら、まず、プレステ3が欲しいんだよ。
兄貴は持つてるけど、俺は持ってないんだよ。

ウサギ お前、結構酷くないか。
お前は、欲しい物、手に入れてるよね。
太ってるし。

兄 何か言うことはありますか。

ウサギ 今言ったよ。

兄 あなた達は、自分たちのルールに従って、私たちの親を殺した。
そして、あなた達は、その後、穏やかに暮らしている。

ウサギ お前もな。

兄 そんなあなたたちだからこそ、私たちに言うことはありませんか。

ウサギ …

爺 …

兄 謝ってくれませんか。

ウサギ 何。

兄 何も殺すことはなかった。
親に、私たちに、謝ってくれませんか。

弟 謝れ。

兄 そしたら、お爺さんを解放しましょう。

ウサギ 本当だな。

兄 もちろん。
私は、嘘つきじゃありませんから。

ウサギ すまなかった。
確かに、殺すべきじゃなかったかもしれない。
本当に、すまなかった。

弟 お前は。

爺 私も、君たちのような子どもたちがいるなんて知らなかったんだ。
もっと話し合えばよかった。
すまなかった。

ウサギ …

爺 …

兄 分かりました。
解放しましょう。
あなたたちの気持ちは、十分伝わりました。

兄、弟に目配せ
弟、爺を解放してやる
弟、爺を兄の方に押す
兄、爺を斬る、斬る、刺す

ウサギ お爺さん。
爺 何で。
兄 言っただでしょう。
解放してあげるって。
爺 何で。
兄 この世から、解放してあげたでしょ。
爺 ∴

兄、刀を身体から抜く
爺 倒れる

ウサギ お爺さん。

ウサギ、刀を抜く

ウサギ 貴様。
何故殺した。
兄 決まってるでしょ。
復讐ですよ。
親の仇ですからね。
もちろん、あなたにも死んでいただきます。
ウサギ 貴様ら。
弟 死ねろ。

ウサギ、弟を一太刀で斬る。

兄 弟。
弟 俺、あつさり過ぎない。
兄 弟。
弟 俺、つい最近 誕生日迎えたばかりなのに、この扱い、ある意味、サプライズ。
兄 弟。
弟 兄貴、歌ってくれないか。
ハッピーバースデー。
兄 ああ。
ハッピーバースデー、トウ、ユー …

弟 ありがとう。

弟、倒れる

兄 弟。

貴様、親だけじゃなく、弟までも。

ウサギ 仕方がないことだ。

兄 開き直るか。

ウサギ 確信したよ。

お前らの様な存在は、この世に存在してはならない。

兄 何だと。

ウサギ お前らの様な悪しき存在は、殺されても致し方ないと言っている。

兄 悪しき存在だと。

柴刈りに誘い、柴に火を点けて大やけどを負わせ、

火傷に効く薬だと、トウガラシ入りの味噌を渡し、

泥舟に乗せて、漁に出掛けて、溺死させる。

そんな酷い殺し方をする奴の方が、悪しき存在ではないのか。

ウサギ 忠告に従ってれば良かった。

火傷を負わされた時点で、畑を荒らさず、黙って山にいれば良かった。

兄 うちらを育てるためだ。

ウサギ だからと言って、人に迷惑をかけていいという理屈は存在しない。

兄 話にならないな。

ウサギ お前の親もそうだった。

何故分からない。

兄 うるさい。

死ね。

ウサギと兄、闘う

ウサギ、軽く斬られる

ウサギ 強い。

兄 お前がそうさせた。

ウサギと兄、闘う

ウサギ だがお前の強さは間違ってる

兄 死ね

ウサギ、兄を斬る

兄、倒れる

ウサギ 何故、復讐に全てを費やした。

さっきの謝罪は、本心だよ。

我々にも非があつたことは事実だと思つよ。

だからこそ、何故、あそこで留めてくれなかつた。

何故復讐の螺旋から抜け出そうとしなかつた。

そうすれば、お前たち兄弟も、我々と一緒に穏やかな生活を送れたかもしれなかつたものを。

こんな風に、お前たちを解放したくはなかつた。

せめて、あの世で、みんなで仲良く、穏やかに暮らしてくれ。

暗転

了